

どっちがどっち？ — アヤメとカキツバタ —

「いずれ菖蒲か杜若」ということわざは、どちらも素晴らしく優劣つけがたいという意味ですが、見分けが付きにくいという意味にも用いられます。アヤメとカキツバタは、ともにアヤメ科アヤメ属の植物で見た目も似ています。

陶史の森では、5月になると湿地にカキツバタが花を咲かせます。カキツバタは水生で、池や沼地など常に水のあるところを好みます。水辺の景色に欠かせない花で、古くから『万葉集』などの歌にも詠まれ親しまれています。名前の由来は「書き付け花」で、衣服を染めるのに利用されたことによります。すらりと伸びた葉と濃紫色の花が初夏らしく水辺によく合い、高さ40～80cmの花茎の先に紫色の花を2つ、3つ付けます。6枚の花被片のうち、外側3枚は大きく垂れ下がり、内側3枚は細長く立っています。紫色の花被片には白いすじがあり、昆虫に花粉や蜜のありかを教える目印となっています。

少し遅れてアヤメが咲きます。アヤメは陸生で、水はけの良いところで育ちます。カキツバタと同じような花を、高さ30～60cmの花茎に付けますが、外側の垂れ下がった花びらに黄と紫の網目模様があります。花の網目模様、あるいは剣形の葉が並び立っている様子が文目模様に見えるのが名の由来といわれます。

また、陶史の森の湿地にはカキツバタやアヤメの花に形がよく似た「キショウブ」という黄色い花も咲きます。大ぶりの黄色い花がよく目立ち、大変きれいです。陶史の森のアヤメ科の花をぜひお楽しみください。



湿地に咲くカキツバタ



アヤメの群生

森	の
日	記

サクラ満開！

3月29日(水)

サクラが満開となり、春の柔らかい日差しの中で家族連れがのんびり過ごす一日でした。日当たりが良いためか、陶史の森のソメイヨシノの中では、ちびっ子広場のサクラが一番最初に咲きます。このサクラの開花を合図に、園内のサクラが1週間ほどかけて順番に咲いて満開になりました。この後、日増しに上がる気温に合わせ、野山の草花も花開き、楽しい季節を迎えます。



陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。

教室のご案内

5月

- バードウォッチング (要申込 定員10人)
5月28日(日) 午前9時～11時
初夏の野鳥を観察します。陶史の森ネイチャーセンター横、林泉の池堤防に集合してください。(雨天の場合は室内で野鳥学習会を行います)

6月

- ミツバチ教室 (要申込 定員10家族)
6月17日(土) 午前9時～11時30分
ミツバチへの対応のため白色の服装、帽子を準備してください。蜂アレルギーの方はご遠慮ください。
- バードウォッチング (要申込 定員10人)
6月25日(日) 午前9時～11時
梅雨期の野鳥を観察します。(雨天の場合は室内で野鳥学習会を行います)